

千代田

No.132

2015

10.25

議会だより



平成27年9月定例会



左のQRコードを読み込むと、
議会ホームページが開けます。



表紙の説明は18ページをのぞいてください。

平成26年度

P. 2 一般会計・特別会計決算の概要

P. 5 決算審査特別委員会

P. 9 一般質問 ところが聞きたい

P.14 視察研修レポート

P.16 委員会のうごき

平成27年
9月定例会

9/8 ▶ 9/18

平成27年第3回議会定例会が、9月8日から18日までの11日間の会期で開かれ、報告、条例の改正、平成26年度決算の認定や平成27年度補正予算、発議等17件が上程され、平成26年度決算の認定については、決算審査特別委員会における審査など、慎重なる審議を行いました。また初日には3名の議員が一般質問に立ち、町の考え方について質問しました。

概要

平成26年度一般会計決算は、歳入総額52億9,618万円、歳出総額50億2,204万円で歳入歳出差引額は2億7,414万円となりました。また、これから翌年度に繰り越すべき財源を差し引いた実質収支額は、2億5,824万円の黒字決算となり、予算執行率は全体で95.9%となりました。

歳入

町税は景気の緩やかな回復傾向により固定資産税で増額となりましたが、町民税及び町たばこ税とも減額となり、町税全体では前年度より1,104万円の減額となりました。

地方交付税は消費税引き上げに伴う基準財政収入額が増額となったことから前年度より1,407万円減額となり、地方交付税の振替として発行される臨時財政対策債も2,181万円の減額となりました。

歳出

安全安心の確保対策では、防災行政無線のデジタル化工事の実施や町有施設に防犯カメラが設置されました。

子育て環境の充実では、学童保育と保育サービスの充実が図られました。

農政関係では、小規模農村整備事業による農道整備が実施されました。

都市基盤の整備では、都市計画道路整備事業が実施された他、舞木地内に橋梁が新設されました。

教育環境の充実では、幼稚園の預かり保育の実施、西小トイレや中学校武道館天井撤去の改修工事等、教育施設の改修が行われました。

〈一般会計決算の主な内訳〉

42万9,785円

町民一人あたりこのように使われました(平成27年3月末 人口1万1,685人)

()の数字は総額

民生費 10万7,131円



(12億5,182万円)

総務費 9万9,438円



(11億6,194万円)

教育費 6万4,761円



(7億5,672万円)

公債費 3万7,837円



(4億4,213万円)

衛生費 3万4,786円



(4億0,648万円)

土木費 3万3,476円



(3億9,117万円)

消防費 2万0,973円



(2億4,507万円)

その他 3万1,383円



(3億6,671万円)

平成 26 年度一般会計決算

歳入（町に入ったお金）

52億9,618万円

歳出（町が使ったお金）

50億2,204万円

歳入

依存財源

国や県に依存する
かたちの財源

県からの支出金 2億7,398万円

国からの支出金 3億6,357万円

借りるお金
3億7,421万円

国からの交付税
5億8,802万円

その他
4億9,372万円

前年度の繰越金 2億6,024万円

積立金からの繰入金
6億8,827万円

自主財源

町が独自に調達で
きる財源

みなさん
からの税金
22億
5,417万円

歳出

その他
3億6,671万円

火災の消火等に 2億4,507万円

道路工事等に 3億9,117万円

町の衛生のために 4億0,648万円

借金の返済に
4億4,213万円

子どもたちの
教育などのために
7億5,672万円

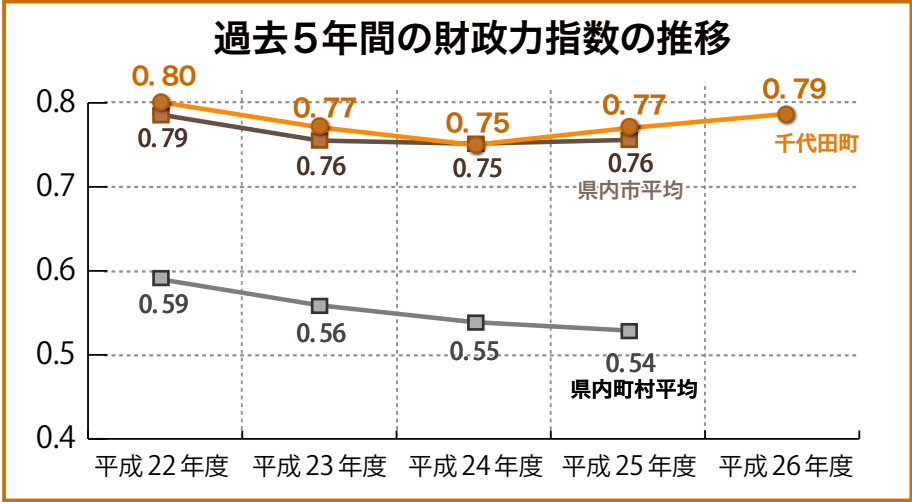
まちづくり等に
11億6,194万円

福祉の充実
のために
12億
5,182万円

※万円未満四捨五入

特別会計・事業会計決算の概要

会 計		決算額		歳入歳出予算現額に対する		概 要
国 民 健 康 保 険 特 別 会 計	歳入	15 億 0,499 万円	収 入 率	99.5%	9 年ぶりの税率改定により収納率が減少しましたが、特定保健指導対象者の減少と将来の医療費の適正化が推進されました。	
	歳出	14 億 3,924 万円	執 行 率	95.2%		
	差引	6,575 万円				
後 期 高 齢 者 医 療 特 別 会 計	歳入	9,947 万円	収 入 率	99.6%	年々増加傾向にある医療費の抑制のため、医療費適正化対策事業や健康意識の普及啓発活動が推進されました。	
	歳出	9,676 万円	執 行 率	96.9%		
	差引	271 万円				
介 護 保 険 特 別 会 計	歳入	9 億 5,802 万円	収 入 率	100.2%	保険料の収入未済額、不納欠損額が前年度より増加し、要介護・要支援認定者は 5 人、介護サービス利用者数は 213 人増加しました。	
	歳出	9 億 3,176 万円	執 行 率	97.4%		
	差引	2,626 万円				
下 水 道 事 業 特 別 会 計	歳入	2 億 8,415 万円	収 入 率	99.8%	平成 26 年度事業では管渠築造工事を推進工法で 274.3 m、開削工法で 728.6 mが実施されました。	
	歳出	2 億 7,652 万円	執 行 率	97.1%		
	差引	763 万円				
水 道 事 業 会 計	収益的収支 (消費税込)	収入	2 億 5,270 万円	前年度と比較し年度末給水人口は 159 人、年間総配水量は 19,981m ³ 、年間有収水量は 22,038m ³ 減少しました。		
		支出	2 億 5,042 万円			
		差引	228 万円			
	資本的収支 (消費税込)	収入	3,072 万円	不足する額は当年度分消費税資本的収支調整額が 772 万円、過年度分損益勘定留保資金 1 億 2,036 万円で補填し、収支の均衡が図られました。		
		支出	1 億 5,880 万円			
		差引	△ 1 億 2,808 万円			



財政力指数は自主財源の調達力を表すものです。財政力指数が 1.00 以上になると、財政力が豊かであるとして、国からの普通交付税が交付されなくなります。千代田町は県内平均より良好な数値を保ち続けています。

監査報告

審査に付された決算関係諸帳簿、証書類は整備されており、計数的にも正確でありました。総体的に基金運用も含め、ほぼ健全な行政運営がなされており、予算も効率よく執行され、行政目的が達成されたものと認めるものです。

歳入は町税・国民健康保険税の収入未済の解消に向けた積極的な取り組みを望み、歳出は各団体への補助金が有効に活用されるよう、補助内容等の適宜見直しをお願いします。

今後とも行政の合理化・効率化を図りつつ、住民福祉の増進と、活力ある町づくりのため、より一層努力されることを期待して審査意見とします。

千代田町監査委員
白石 正躬
青木 國生



新

たに

決算審査特別委員会を設置

今定例会において決算審査の充実を図るため、12名の議員全員により決算審査特別委員会を立ち上げ、委員長に襟川仁志議員を選任し、平成26年度決算の審査を行いました。

従来の決算審査では、2つの常任委員会で各所管の審査を行い、所管外の詳細な内容の審査が難しい状況でしたが、今回全議員で審査することにより情報を共有化し、審議の充実を図りました。

主な質疑

一般会計決算

問 出生率を上げる施策は。

答 平成22年度から不妊治療助成事業を行い、近年浸透してきています。また出生後も安心して子育てできるように各種サービスを行っています。

問 生ごみ処理機導入補助金の金額と実績は。

答 電気式処理機は1年間1機が限度で、1機当たりの補助限度額が2万円です。電気式でない生ごみ処理機は、1年間で2基が限度で、1基当たりの補助限度額が2,000円です。平成26年度の実績では、電気式が1機、生ごみ処理機が3基です。更なる普及推進に努めます。

●事件名

- 認定第1号「平成26年度千代田町一般会計歳入歳出決算の認定」
- 認定第2号「平成26年度千代田町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定」
- 認定第3号「平成26年度千代田町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定」
- 認定第4号「平成26年度千代田町介護保険特別会計歳入歳出決算の認定」
- 認定第5号「平成26年度千代田町下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定」
- 認定第6号「平成26年度千代田町水道事業会計歳入歳出決算の認定及び剰余金の処分について」

●審査年月日 平成27年9月14日・15日

●委員会構成

議員全員

(委員長：襟川 仁志 副委員長：金子 孝之)

町のお金は
どう使われた？



平成26年度各会計決算 徹底審議

問 環境衛生費の不用額の原因は。

答 主な要因は、住宅用太陽光発電の設置補助金で、年々、申請件数が減ってきていることが要因と考えられます。しかし、年毎の申請件数もわからない点もありますので、例年通りの予算額としました。

問 下水道に接続していない家もあるようだが、流域下水道の工事完了予定は。

答 予算の関係もありませんが平成29年度中の完了を目標に努めます。接続しなくても罰則等はありませんが、下水道の接続率が上昇するよう努力します。

問 下水道使用料の収入未済額があるが原因は。

答 平成12年度から下水道の賦課徴収が始まり、その時期からの未済が積み上がったものです。企業は入っていませんので、個人の方で、下水道料金を支払わずに転居し

てしまい、その後不明となり回収が難しい場合があります。

問 災害時の町における緊急対応は。

答 職員には防災マニュアルで周知しています。千代田町地域防災計画を今年度より改定予定のため、避難体制等を含め、更に検討を加えていきます。

問 町内自主防災組織のさらなる普及は。

答 現在、6地区で発足し、町として立ち上げの支援等を行っていきます。

問 総務費工事請負費の不用額の原因は。

答 役場エレベーター改修事業が当初より安価にできたためです。

問 行政区活動交付金について区長の活動費をまとめたものと説明があったが、各行政区の活動にどんな影響があったか。

答 以前より、利用できる場面が増え、利用しや

すくなったのではないかと考えます。

問 弁護士への法律相談件数は。

答 年6回行い、平成26年度は28件ありました。

問 保育園では0歳児が今後増加していくことが考えられるが、施設増床等の考えは。

答 保育スペースの増床について、西保育園では本年度建物の具体的な設計を行う予定です。

問 システム使用料等の費用が高いと考えるがコスト削減にクラウド化等の考えは。

答 今後クラウド化等も含めて検討していきます。

問 給食サービス事業の対象者は。

答 65歳以上の1人暮らし高齢者の方あるいは高齢者のみの世帯の方等に月2回給食を配送しています。



問 町が行っている各種
予防事業の効果は。

答 介護状態になる年齢
が遅くなるように事業を
行っています。近年、健
康年齢の延伸や健康意識
の高まりなど、徐々に効
果が出ていると感じてい
ます。

問 設計監理委託料が
高額だがどのように決め
られているのか。

答 入札にかかるものは
入札審査会において業者
を選定し、入札を行って
います。それ以外のもの
は物件ごとに見積もりを
とっています。

問 温水プールの水質管
理の状況と、使用料は町

内・町外の利用者で差は
あるのか。

答 水質検査は、月1回
業者委託しているほか、
職員が毎日塩素濃度を検
査し、水の入れ替えも状
況に応じて実施していま
す。また、使用料は両毛
広域都市圏の中で、相互
利用施設となっているた
め、町内・町外で区別し
ていません。

問 小・中学校のパソコ
ン設置状況は。

答 パソコン教室での授
業では、各クラス1人1
台ずつ使える状況です
が、充分とはいえず増や
していければと考えてい
ます。

問 幼稚園の預かり保育
を利用する要因は。

答 保護者の就労、冠婚
葬祭、病気や入院、介護
などさまざまです。

問 給食費に収入未済
額があるがどのような要
因か。

答 口座振替にしてから
未済額が増加傾向にあり
ます。

問 奨学金の申し込みに
対応できなかった人はい
るのか、また月額増や
せないのか。

答 教育委員会において
審査し、基準に合わない
方もいます。また、増額
は町の財政状況を見なが
ら考えていきたい。

問 サッカー場の緑地管
理に多額の経費がかかっ
ているが、簡単な観客席
を設置するなど工夫はで
きないのか。

答 教育委員会だけで判
断できないので、庁内調
整会議で相談したい。

問 ジョイフル本田関連
の商業施設誘致促進奨励
事業はいつまでか。

答 土地に対しての奨励
金は平成27年度で終了で
すが、建物分は平成28年
度までです。

問 新規工業団地の進捗
状況と都市計画道路の完
成はいつか。

答 工業団地は、誘致企
業の決定に取り組んでい
ますが苦戦しています。
また都市計画道路は、今
年度までの計画でした
が、交付金の状況により
3年程度延伸するのでは
と考えます。

問 上水道の老朽管布設
替えの計画は。

答 広域化により10年で
すべて終了させる計画で
す。

特別会計決算

国民健康保険

問 今後、保険料の値上
げの可能性は。

答 平成30年度より県の
広域化が始まり、市町村
ごとに県との調整による
金額となります。平成26
年度と同様な状況ですと
当面保険料改定の必要性
は低いと考えられます。

していて入所できていな
い方が、38人です。また、
町では増床を行ったところ
で、前年比16人減少の
38人となりました。これ
以上の改善を図るには更
なる増床や新設などの整
備が必要となります。近
隣市町で整備された場合
は千代田町民も利用できる
ため、改善が期待され
ます。

介護保険

問 特別養護老人ホーム
の待機状況は。また、待
機されている方が今後、
入所できる見込みは。

答 平成27年5月1日現
在の、町で把握している
状況ですが、申し込みを

平成 27 年度 一般会計・特別会計補正予算

項 目		補 正 額	補正後予算額
一般会計（第2号）		2 億 6,843 万 2,000 円	47 億 3,371 万 1,000 円
国民健康保険特別会計（第1号）		2,253 万 1,000 円	16 億 3,910 万 7,000 円
介護保険特別会計（第1号）		2,394 万 9,000 円	9 億 9,406 万 1,000 円
下水道事業特別会計（第1号）		1,565 万 4,000 円	2 億 8,423 万 8,000 円
水道事業会計 （第2号）	収益的支出	△ 312 万 2,000 円	2 億 7,611 万 2,000 円
	資本的支出	4,328 万 5,000 円	1 億 6,219 万 7,000 円

一般会計補正予算
（第2号）

その他の議案

主な質疑

問 災害時の町民への情報提供の方法は。

答 避難情報には、避難準備情報・避難勧告・避難指示があります。こういった情報を住民の方々が災害時に理解できるように、情報の共有化を図るため、広報・HP等活用

問 町内の避難場所の選定については。

答 町の地形等の状況を考え、千代田町地域防災計画で定められていますが、計画の見直しを予定していますので、策定に際し総合的に検証していきたい。

し発信していきま
す。

発議

千代田町議会議規則の一部を改正する規則

「千代田町議会議規則の一部改正」の発議が議会運営委員長より提出されました。

提案理由：議会における「欠席の届出」について、新たに議員本人の「出席」に伴う議会の欠席について規定するものです。全国議長会の標準規則において、改正が行われたため、本町においても整合性を図る観点から、改正をするものです。

← 全員賛成により可決

審議議案と議員の賛否（第3回定例会）

	議 案 名	議 員 名												議 決 結 果 (賛成:反対)
		野村智一	高橋祐二	坂部敏夫	襟川仁志	金子孝之	小林正明	柿沼英己	富岡芳男	細田芳雄	黒澤兵司	青木國生	福田正司	
第3回定例会														
議案 37 号	千代田町個人情報保護条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	可決(11:0)
議案 38 号	千代田町手数料徴収条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	可決(11:0)
議案 39 号	字の区域の変更について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	可決(11:0)
議案 40 号	平成27年度千代田町一般会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	可決(11:0)
議案 41 号	平成27年度千代田町国民健康保険特別会計補正予算(第1号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	可決(11:0)
議案 42 号	平成27年度千代田町介護保険特別会計補正予算(第1号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	可決(11:0)
議案 43 号	平成27年度千代田町下水道事業特別会計補正予算(第1号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	可決(11:0)
議案 44 号	平成27年度千代田町水道事業会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	可決(11:0)
認 定 1 号	平成26年度千代田町一般会計歳入歳出決算の認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	認定(11:0)
認 定 2 号	平成26年度千代田町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	認定(11:0)
認 定 3 号	平成26年度千代田町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	認定(11:0)
認 定 4 号	平成26年度千代田町介護保険特別会計歳入歳出決算の認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	認定(11:0)
認 定 5 号	平成26年度千代田町下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	認定(11:0)
認 定 6 号	平成26年度千代田町水道事業会計歳入歳出決算の認定及び剰余金の処分について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	認定(11:0)
認 定 7 号	東毛広域市町村圏振興整備組合の解散に伴う平成26年度東毛広域市町村圏振興整備組合歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	認定(11:0)
発 議 1 号	千代田町議会議規則の一部を改正する規則	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	可決(11:0)

※議長は賛否同数の場合のみ採決に参加します（○は賛成、×は反対、欠は欠席）

そこが聞きたい 3 議員が登壇

一 般 質 問

一般質問とは、議員の立場から、町長や町の各行政機関の長に対する町政運営全般における事務執行の状況や、将来に対する方針等について所信をただし、あるいは、報告・説明を求め、または疑問を問い質すことをいいます。

ページ	質 問 者	質 問 項 目
10	柿沼 英己 議員	①西小学童クラブの増築について ②環境のまちづくりについて ③健康のまちづくりについて
11	小林 正明 議員	①空き家対策について ②国語教育について
12	坂部 敏夫 議員	①農業等の長期政策を問う



西小学童クラブの増築について



柿沼 英己 議員

町長 本年度中に増築を行いたい

問 学童クラブの現状と、今後の見通しについて伺う。

町長 児童福祉法の一部改正により平成27年4月より利用対象児童が、実質小学校6年生まで拡大となったことに伴い、西小学童クラブでは定員60人に対して通年、夏季休暇と短期の希望を含め93人の申し込みがあり、児童センターも活用して対応しています。今後学童保育所の利用希望者は継続的に増加傾向が予想されますので、西小学童クラブの早期増築を検討しています。

問 増築の具体的計画はどのようなものか。

町長 現在は保育室1室ですが、本年度中に35坪前後の1棟を増築し、2教室での運営を行いたいと考えています。今回の内容で対

象となる施設整備補助金がありませんが、設計、建築を含め5年間のリースを予定し、増

築分は運営経費等の補助金で対応したいと考えています。

環境教育について

教育長 資源リサイクル等を行っています

問 本町のエコスクールはどのような取り組みをしているのか。

教育長 小学校では緑のカーテンを設置し、日陰による節電について体験的に学習できるように努めています。資源のリサイクルでは、3校とも回収した牛乳パックをトイレシートペーパーに交換したり、アルミ缶や古新聞などの資源回収を実施すると共に、ペットボ

トルのふたを回収し、世界の子供たちのワクチン購入に寄付しています。

健康のまちづくりについて

町長 各種健康教室を推進しています

問 高齢者への運動機会の提供はどのようなものがあるのか。

からはムーブストレッチの活動も始めました。

町長 温水プールでは年間を通じて、一般から高齢者向けの水中アクアビクス教室や水泳教室、水中ウォーキング教室を実施しています。また、町民プラザで毎月ヨガ教室を実施していますが、本年度から高齢者に無理のない運動で、一緒に運動を楽しみながら交流が図られる有意義な教室となっています。



歩いて健康増進

空き家対策について



小林 正明 議員

町長 実態調査を実施し、対応したい

問 町内の空き家、特定空き家の戸数は把握しているのか。

町長 戸数は把握をしていますが。空き家等

対策の推進に関する特別措置法が制定された背景を考え、今年度は調査方法等を検討し、平成28年度には調査を実施したい。

問 空き家対策特別措置法の対応策は。

町長 法では、国や県市町村の権限や役割を規定し、市町村は空き家等管理計画の策定が努力義務として規定されています。所有者に

よる管理・処分・周辺住民の苦情などに対応する相談窓口の設置は各市町村の動向を参考に考えています。

問 空き家対策補助制度、空き家の再活用のか。

町長 空き家等は個人の所有物件であり、その責任において適正管理を行うべきです。しかし、経済的に難しい面もあることから、放置対策として改築や解体等の費用の補助制度は有効な手段だと思います。実態調査の結果を踏まえた上で検討したい。

国語教育について

教育長 教材を有効に利用していきたい

問 辞書引き学習について伺う。

教育長 小学校3年生から、児童が自分で国語辞書を使って言葉の意味を調べる学習を行っています。4年生からは、漢字辞書を使い、部首・画数などから漢字を探す学習も始めています。言葉を積極的に辞書で調べ意味を理解し言葉がわかる喜びを体験させ、文章を読んでいく学習を充実させていきたい。

問 小中学生の読書について伺う。

教育長 朝の読書は小学校では週2回程度行い読書の習慣化を促し、学期1回程度は読み聞かせのボランティアの方をお願いする場合もあります。中学校



多くの児童が利用する学校図書室

では毎朝行い、読書の習慣化が定着し1日の学習が落ちついた雰囲気の中で始まり、学習に対する心構えができるように学校全体で努めています。

問 学校図書室の利用状況は。

教育長 学校図書室の利用状況は小中学生合わせて、1人当たりの貸し出し数が、平成25年度が60冊、平成26年度は70冊程度です。小学生と中学生を比べると、小学生の貸し出し数が多くなっている、小学生の読書意欲の高さがうかがえます。

ど、読書の習慣化に努めています。

農業等の長期政策について



坂部 敏夫 議員

町長 農家が自立できる道を確立していきたい

問 休耕地の実態、全農地に対する面積と%はどれ位か。

町長 田が762ha、畑が202haあります。耕作放棄された遊休農地が、農地パトリールの結果9・3haで全農地の約1%に当たります。

問 休耕地の活用策、農地の集積化についての考えは。

町長 本年度から運用が始まった農地中間管理事業で、担い手農家への集積化を活用策の1つとして考えます。

経済課長兼農業委員会事務局長 今後、畦畔除去などを所有者や地元の方と相談しながら進めていきます。

問 農業や植木業などの後継者不足の対策についての考えは。

町長 全国的な問題であり、国も各種対策を講じています。生活が成り立つ必要があるので、米麦だけでなく、収益の上がる作目に取り組み事が重要です。そのための機械導入補助や親元就農だけでなく、新規就農を希望する意欲のある方には、研修期間中の生活基盤を支えるための研修費を支給する制度にも取り組めます。

問 地域特性を生かす植木・農業の振興についての考えは。

町長 米麦主体の農業から、地域の特性を生かせる作目を研究し、農家が自立できる道を確立していきたいと考えています。

問 農業・植木業の実績を生かした特産品・

ブランド品として、富有柿や干し柿などを作ったかどうか。また6次産業品のブランド化の考えは。

町長 提唱する趣旨は同感です。
経済課長兼農業委員会事務局長 現在ではブランド化された白菜「邑美人」・ゴーヤが定着し、米麦との複合経



事業転換の例

営の望みが見えてきました。ブランド化には、気候・土壌・販売経路に加え、生産者の士気など、障壁を乗り越えなければなりません。6次品のブランド化については、一流のものとして他との差別化を図ることが必要不可欠になると考えます。

問 クラインガルテンについての考えは。

経済課長兼農業委員会事務局長 新規就農への誘導策として視野に入れながら、農業振興にあたっていきたい。

※クラインガルテンとは、ドイツで盛んな農地の賃借制度のことを言い、「市民農園」もしくは、「滞在型市民農園」とも言われています。

第3回 千代田町議会

議会報告会



平成 27 年 11 月 4 日 (水)

◆開場：午後 6 時 ◆開会：午後 6 時 30 分～ 7 時 30 分

●場所：千代田町総合体育館 1 階多目的室

千代田町大字上五箇600-1 ☎ 0276-86-8810

平成 27 年 11 月 6 日 (金)

◆開場：午後 6 時 ◆開会：午後 6 時 30 分～ 7 時 30 分

●場所：千代田町町民プラザ 1 階講義室

千代田町大字赤岩1701-1 ☎ 0276-86-6311



千代田町議会では、議会で取り組んでいる内容を報告するために、議会報告会を開催します。

皆様のご参加をお待ちしております。

千代田町議会

…お問い合わせ先…

千代田町役場 議会事務局 千代田町大字赤岩1895-1
TEL:0276-86-7009 FAX:0276-86-4591

参加者
襟川 仁志
野村 智一
細田 芳雄
柿沼 英己
福田 正司
欠席者
黒澤 兵司

総務文教常任委員会

7月23日～24日 新潟県妙高市・見附市

こども園・地方創生の取り組みを学ぶ

妙高市

妙高市は日本百名山の妙高山の裾野に位置し、四季折々の変化に富んだ雄大な自然景観と、湧出量豊富な温泉やたくさんのスキー場を有する観光地で、人口約3万4,000人の市です。

少子化の流れから平成20年よりこども教育課を設置し、幼稚園、保育園を同じ課で管轄しています。全部で17ある幼稚園・保育園を順次認定こども園にしていく方針で、この4月から3つ目のこども園として開園したばかりの「よつばこども園」を視察してきました。

定員185人の施設に169人、その内従来の幼稚園児は41人で年齢ごとに9クラスに分かれています。職員数は保育教諭、パート保育士、調理員あわせて39人で運営をしています。施設内では図書コーナー、相談室、医務室やプールなどがあり、保育をするために十分な環境が整っていると感じました。運営上の大きな問題は無いというということで

すが、事務量は以前より多くなり、職員全体での打ち合わせ時間が取れなかったりと、事務的な問題はあるという話でした。また職員の机の上にはパソコンだけが置いてあり、IT化により効率が図られていると感じました。

子ども子育て支援新制度が始まり、全国の認定こども園も倍増しています。千代田町も幼稚園児が減ってきている状況等を考え、まずは機構改革などの取り組みを進めることが重要だと感じた研修でした。

襟川 仁志 記



見附市

見附市で「エコスクール化」・「地方創生」への取り組みについて学んできました。

エコスクール化の取り組みとして、見附市は教育現場において省エネルギー対策への取り組みを積極的に推進しています。生徒たちの環境意識を啓発し、家庭でも省エネ・エコ活動を促し広めることを目的とし、各小中学校で生徒たちが節水・節電など独自の取り組みをしています。今年で8年目を迎え

年々生徒の環境意識は向上し、生徒たちも自主的に活動に取り組んでいます。

見附市は超高齢化・人口減少社会の中で、持続できる町づくりを目的に、地域再生計画を策定し、国の地方創生モデル事業として、この計画が第1号に認定されました。都市の集約と集落地域の存続を両立するため公共交通・市街地活性化・ライフスタイルに応じた住み替え等の施策を総合的に進めるもので、将来を見据え地方創生に取り組んでいます。

それぞれの特色を生かした魅力と活力に満ちた地域づくりが、将来にわたり持続可能な町づくりにつながると考えます。

野村 智一 記



※エコスクール…環境負荷の低減や、自然との共生を考慮した学校施設として整備し、環境教育の教材として活用するものです。

参加者
金子 孝之
青木 國生
富岡 芳男
小林 正明
高橋 祐二
福田 正司
欠席者
坂部 敏夫

福祉産業常任委員会

7月16日～17日 山形県川西町・新潟県聖籠町

次世代育成支援を学ぶ

視察研修 レポート

川西町



川西町は、
山形県南部の
置賜地方おきたまのほ
ぼ中心に位置
し、1955年に
1町5村が合併

した人口約1万6,300人、世帯数約5,200世帯の
米どころの町です。近年の経済状況を反映して共
働世帯が増え、保育所入所希望者が増加、平成
27年4月から5年間を一期とする「川西町子ども・
子育て支援事業計画」を策定し、国・県・町総計
画との整合性を図り進めています。

教育・保育施設の充実策としては、認可保育所、
地域型保育施設などがあり、認定こども園も視野
に入れながら検討が進められています。

また、地域の子育て支援の充実策としては、一

時預かり、延長保育などがあります。特に病児保
育も充実し、利用者は置賜地方全域にわたって
いて、子育て世帯に力強い支援となっている他、放課
後児童クラブについても地域NPO法人で運営して
いるところもあり、町ぐるみで支援している様子
がうかがえました。

子ども子育て支援の先進地である川西町で多く
を学ぶことができ、これからの本町の「子ども・子
育て支援施策」に反映したいと考えます。

小林 正明 記



聖籠町

聖籠町は新潟県の海岸地帯の北部、越後山脈に
源を発する加茂川の下流に位置し、面積は37.58
km²でほぼ平坦な穀倉地帯で稲作の他、さくらんぼ
などの果樹栽培が盛んに行われています。

平成17年4月より幼稚園からこども園に名称を
変え、小学校区域ごとに町内3つのこども園に457



人、4つの保育園に204人の子どもたちが通園し
ています。こども園になったことで保護者からは、
「教育的環境と保育的環境の両面があり、保育の質
が高くなった。また、安心して働ける」との声が多
く寄せられているそうです。通常保育料の無料化や
延長保育料の低額化、町立保育園を民営化し保育
サービスを向上させました。平成26年3月には、『聖
籠町こども条例』を制定し子育て支援の充実を図っ
ていることから、町外から多くの子育て世帯が流入
し、人口も毎年増加しているそうです。

千代田町では、こども園を前提に西保育園敷地
内に西幼稚園を建設しましたが、数年経っても何も
変わっていません。聖籠町で研修したことを研究し、
子育て支援体制をさらに充実できればと思います。

高橋 祐二 記

総務文教常任委員会

◎襟川仁志 ○野村智一 黒澤兵司 細田芳雄 柿沼英己 ◎委員長 ○副委員長

町からの報告事項

●主な所管事務について

総務課…大雨での新谷田川放水路越水による住宅浸水の被害状況について

財務課…個人町民税特別徴収の全県一斉指定について

公共施設利用者アンケート調査について

教育委員会…スポーツ少年団への補助金並びにスポーツ派遣費の増額について

主な協議事項

●認定こども園・地方創生についての意見交換

●閉会中の継続調査について

主な質疑

問 赤岩の住宅火災の消火作業の際、水圧の弱い消火栓があったが、防火対策は大丈夫か。

答 赤岩2区は消火栓に続く水道管自体の口径が小さいので、これから管網整備を含め防火水槽などの消防水利の検討をしていきたい。

意見交換

【認定こども園について】

執行部 町内の幼稚園児の人数は、西幼稚園が64人、東幼稚園が32人で、園児の減少や保育園への移行などで年々減っています。組織機構では近隣で大泉町が子育て支援課、邑楽町では子ども支援課が出来てきています。

議員 こども園への移行はメリット・デメリットあるので、しっかり研究しながら中期的な課題として取り組んでほしい。

執行部 公立の認定こども園への移行は、メリットが見えてこないのが現状です。群馬県でも2園だけで、補助が無く町単独でやらなくてはならないため財政面でも負担が多いです。子ども子育て支援新制度の中身を確認しながら進めていきたい。

【地方創生について】

執行部 千代田町総合戦略の基本目標「新しい雇用環境の創出」「定住・移住促進」「結婚・子育て支援」「人の交流促進」の4つを基軸として、係長級以上の部会を編成し施策の細かい調整を行っています。出来る事業を検討した中で、たたき台として10月予定の有識者会議に提案したいと思っています。

議員 若い人の出会いの場を作る事業を多く考えてはどうか。

執行部 年に何回か事業を行なっていますが、結婚にまで至っていないのが現状です。今後、近隣

の町と連携して考えていきたい。

議員 働いているお母さんが安心して出産できる環境を作ってあげることが、2人目3人目の出産に繋がると思っています。

執行部 大学生まで育てるにはお金がかかります。小さい内からの支援も重要です。大きなことから支援策も考えていかなければならないと思います。

議員 駅のない千代田町に住んでもらうために、若い世代が通勤通学するためのデマンドバスを取り入れたらどうか。

執行部 デマンドバスについては、交通弱者対策として今後検討されていくと思いますが、若い世代に定住してもらうには、まずは千代田町にある分譲地に住んでもらうことが必要であり、そのための補助金や支援策を考えていきたい。



充実に向けて検討される消防水利

福祉産業常任委員会

◎金子孝之 ○坂部敏夫 青木國生 富岡芳男 小林正明 高橋祐二 ◎委員長 ○副委員長

町からの報告事項

●主な所管事務について

住民福祉課…敬老祝金の支給について
臨時福祉給付金・子育て世帯臨時特
例給付金について
環境保健課…保健センターまつりの開催予定につ
いて
経 済 課…川せがきの開催結果について
国勢調査について
産業祭の開催予定について

建設水道課…ふれあいタウンちよだ分譲状況と商
業用地造成工事について
舞木土地区画整理組合の保留地処分
状況について
大雨での新谷田川放水路越水による
住宅浸水被害状況について

主な協議事項

●次世代育成支援対策についての意見交換
●閉会中の継続調査について

主 な 質 疑

問 新規工業団地の進捗
状況と説明会の予定は。

答 県の関係課局と連携
し業種にこだわらず全国
に案内や連絡を取ってい
ますが、進出企業の決定
に至っていないため、関
東農政局との協議ができ
ない状況です。また、説
明会は地元の要望もあり
ますので、半年に一度程
開きたいと考えています。

問 商業用地への進出
企業は、またふれあいタ
ウンの土地を民間業者に
買ってもらおう考えは。

答 企業名は公表できま
せん。しかし、商業用地
進出を検討されている企
業はありますが、今のと
ころ決定までは至ってい
ません。また、ふれあい
タウンは、現在民間業者
による建売も行っており、
早期分譲に向け連携して
取り組んでいきたい。

問 地方創生の総合戦
略会議は何回実施したの
か、また内容は。

答 3つの分科会を1回
開き、内容はまとまり次
第議会に報告したい。

問 舞木土地区画整理
地内の保留地分譲促進の
ため、価格を下げるこ
とはできないのか。

答 事業終結に向けて
組合理事長に町としての
協力について、回答させ
て頂きました。その中に
保留地価格の見直しにつ
いても伝えていますが、
協力金の問題で協議が進
まない状況です。

問 子育て関連の専門窓
口設置の考えは。

答 早急に検討しなけれ
ばならないと認識してい
ますが、職員不足のため
対応が難しく、今後職員
の増員を含め、子育て関
連専門窓口の設置を検討
していきたい。

問 都市計画道路の進
捗状況は。

答 平成26年度末で土
地の買収は、約80%の協
力を頂いています。交付
金が減額されております

が、平成30年度には開通
にもつていきたい。

意見交換

【次世代育成支援
について】

議員 保護者のニーズに
沿った保育園や幼稚園の
計画はあるのか。

執行部 町の子どもたち
が健やかに育ち、社会に
出られる力をつけられる
よう、ニーズを見極めな
がら町にあったかたちで
の、保育・教育の在り方
が必要と考えます。

議員 町として幼稚園と
保育園のバランスをどの
ように考えているのか、
また保育園において教育

も受けさせたい保護者も
いるのではないかと。

執行部 社会情勢によ
り保育が必要な子が増え
ているのが原因と考えま
す。また教育は、保育園
は教育指針がありません
ので、0〜2歳児は、生
きる力を育み体力づくり
に主眼をおき、3〜5歳
児は小学校入学に向け、
さまざまな知識を身に付
けられるようにしていま
す。

議員 保育園職員の正職
員を増やす考えは。

執行部 職員定数の関係
で難しい状況ですが、ク
ラス担任に関しては正職
員をつけるよう努力して
いきたい。



健やかな成長のために



絵手紙の会 「どんぐり」

代表者 山本 久恵さん（舞木）

絵手紙の会「どんぐり」は会員16名で、山本久恵さんを中心に多田泰子先生指導のもと、活動しています。

上手よりもヘタでいいをモットーに、描きたい気持ちの感性を育てています。

毎月のテーマは、生活や季節を取り入れ題材としています。今回は、巻紙絵手紙で「忘れられない思い出」をテーマに、文章を添えて仕上げています。



10月は町民文化祭に向けて作品を制作し、11月は賀状、干支のサルを羽子板に描く予定です。

月に1回、和気あいあい生涯学習として楽しんでいます。初心者大歓迎、見学に来てみませんか。

議会を傍聴しませんか？

次回の定例会は、

12月3日(木)～12月10日(木)の予定です
(一般質問は初日の午前9時からです)



会議録は町のホームページからご覧になれます [千代田町議会](#)



議会広報編集委員会

委員	委員	委員	委員	委員	副委員長	委員長
高橋 祐二	坂部 敏夫	襟川 仁志	福田 正司	小林 正明	野村 智一	金子 孝之



今号の表紙

9月13日に、防災訓練が行われました。もしものときのために、子どもたちも一生懸命訓練に参加しました。

議会だよりに掲載された写真を無料で差し上げます。
詳しくは議会事務局まで ☎(86)7009